

ひろば

Vol.152

HIROBA

発行日：2026.6.12 発行人：安達 洋次郎

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内 TEL & FAX 03-5371-2732 (事務局)

<https://www.kougei-dousoukai.jp> kougei_dousoukai@kougei-dousoukai.jp (受信専用)

東京工芸大学 卒業祝賀会



卒展×同窓のつどい
卒業制作展
卒業のことば
ホームカミングデー

フォックス・タルボット賞
学位授与式
卒業祝賀会
ひろばのページ

東京工芸大学同窓会主催

東京工芸大学主催の「卒展×同窓のつどい」が、今年も卒業制作展開催期間中に盛大に行われました。このイベントは、同窓会として後輩の皆さんを応援し、また、旧交を温めるなど交流の機会を設けることを目的としています。会場は同窓生のみならず、教職員の皆様、現役の学生の皆様にも多数ご参加頂き、大盛況のうちに会を終えることができました。また来年も皆さんとお会いできるのを楽しみにしています！

- 開催日時 2026年2月14日(土)15:00~17:00
- 場 所 中野キャンパス2号館地下1階プレイス(学食)
- 参加人数 214名(内訳：卒業生144名・在学生39名・教職員5名・その他26名 (上田耕一郎 75期))

卒展を観ながら同窓会をしよう!!
東京工芸大学同窓会主催
ご案内

卒展×同窓のつどい2026

＜開催概要＞

【東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2026】は、中野キャンパスで開催されます。同窓会としては後輩のみなさんを激励すると共に、旧交を温める空間を提供しようとして「卒展×同窓のつどい」を企画しました。

同窓生のみなさん、卒展を観に来られた際には、同窓会の会場にも是非お立ち寄り下さい。軽食と飲み物を用意してお待ちしております。

- 卒業制作展に来場された方はどなたでも入場できます。
- 同窓生と恩師、後輩達が集う「おしゃべりの場」としてお気軽にご来場下さい。
- 同窓生の方には記念品を差し上げます。

＜開催概要＞

日程	2026年2月14日(土)
会場	東京工芸大学中野キャンパス2号館地下1階「プレイス」(学食)
時間	15:00~17:00
入場料	無料

※事前申込不要。時間内出入り自由

2月14日(土)は「東京中野に集まりましょう!」

東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2026

日程	2026年(令和8年)2月13日(金)~15日(日)
会場	東京工芸大学中野キャンパス
時間	13日(金) 13:00~18:00 14日(土) 10:00~18:00 15日(日) 10:00~15:00

東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2026 メインビジュアル ▲
【夢をここで、どこまでも】 岡崎月詠(デザイン学科4年)

Access map

「卒展×同窓のつどい2026」アンケート結果

年齢	割合
10代	13.2%
20代	45.3%
30代	13.2%
40代	5.7%
50代	9.4%
60代	13.2%

満足度	割合
大変良い	75.5%
まあまあ良い	13.2%
普通	11.3%
あまり良くない	0%
良くない	0%

学科	割合
写真学科	37.7%
デザイン学科	13.2%
インタラクティブメディア学科/メデ...	13.2%
アニメーション学科(コース)	13.2%
ゲーム学科(コース)	0%
マンガ学科	0%
旧短大	0%
卒業生・在学生ではない	0%
その他	0%

その他 コメント

- ・アルコールお願いします!!!!
- ・昨年の同窓会よりも料理のバリエーションが豊富になった?ように思えました。唐揚げがとても美味しかったです!
- ・毎年楽しみにしています!
- ・めちゃ楽しいね。モチベ上がるよ~
- ・以前は立食の形でしたので一箇所に固まらずに済みましたが、席を沢山用意されたのであまり知らない方と関わるのが難しいと感じました。
- ・食べ物の種類が沢山あり、とても楽しい時間を過ごせました。企画を立ててくだ

- さった方、そして、企画に携わってくださったスタッフの方、ありがとうございました。
- ・このような機会がありありがたいです
- ・校舎が綺麗になっていたのがワクワクしました。卒展もとても楽しかったです。
- ・校舎が新しくなってから初めて来校しました。沢山の作品が見られて良かったです。
- ・ピーガン食がなかった
- ・卒業生の方など、様々な方と話せるなどができるのが良いと感じました。

卒業・在籍している学科
(回答がゼロだった学科は表示を省略しています)

2 | ひろば vol.152

卒展×同窓のつどい2026



写真提供：都筑写真事務所

卒展委員長の言葉

去る2026年2月13日(金)から15日(日)の三日間に渡り、「東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展 2026」が中野キャンパスで開催され、芸術学部の7学科(写真、映像、デザイン、インタラクティブメディア、アニメーション、ゲーム、マンガ)及び大学院芸術学研究科が揃って展示・上映を行いました。

期間中は軽微な天候の変化もございましたが、大きな影響はなく、3,300名を超える皆様のご来場により、昨年以上の賑わいとなりました。大過なく本展を終えることが出来たこと、学生や教職員の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。

かつては様々な学外開催地で実施しておりました本展ですが、メディア芸術の拠点である本学中野キャンパスで卒業制作展が行われるようになり、早10年が経ちました。

写真の専門教育機関として端を発し、歴史ある本学中野キャンパスにおいて、メディア芸術の教育研究の集大成を発表することは、誠に意義深いものと存じます。

中野キャンパスでの開催以降、ご来場の皆様も年々増え続けて参りましたが、一時はコロナ禍により予約制・入場制限を余儀なくされ、多くのお客様にご来場いただけない時期もございました。



その後ようやく通常開催へと復し、再び多数の皆様にご来場いただける展覧会へと戻すことができ、今年のような盛況を迎えることができましたことをとても感慨深く存じます。これも一重に東京工芸大学を支えてくださる同窓会の皆様の多大なるご支援の賜物と心より深く感謝申し上げます。

さて、今年度の卒業制作展は2027年2月12日(金)から2月14日(日)まで開催を予定しております。同窓会の皆様におかれましてはこれまでと同様、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

卒業制作展委員会委員長
准教授 水谷 元(デザイン学科)



吉野学長



大島芸術学部長



永江大学院芸術学研究科長

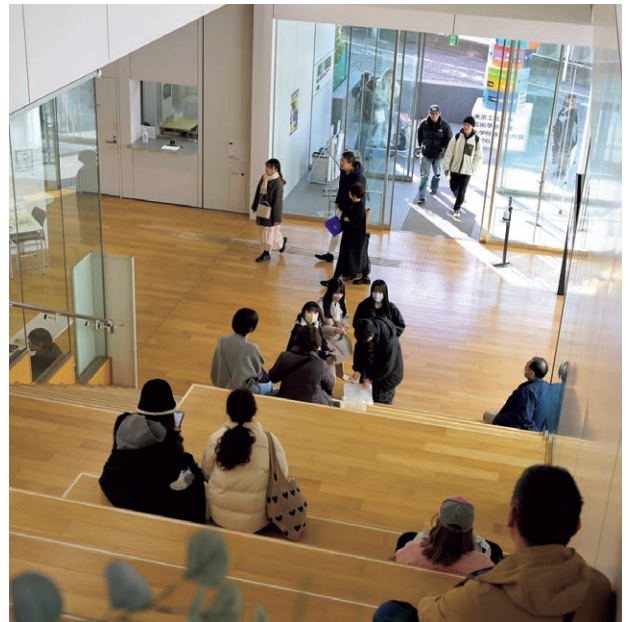


オープニングセレモニーに集まった学生・教職員のみなさん



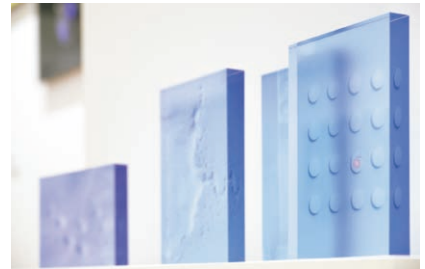
東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2026メインビジュアル
「夢をはこんで どこまでも」岡崎 月読
(デザイン学科4年)

「卒展開催を振り返って」



卒業制作展の写真提供：都筑写真事務所

写真学科



卒業のことば

写真学科 中根 健太

最近、部屋の掃除を終えてふと見渡したとき、写真集や写真論の書籍で自分の本棚が埋まっていることに気づきました。コンテナは雑誌や文庫で溢れ、奥のほうには整理が追いついていないネガフィルムがあります。大学生活の中で積み上げてきたものだと思うと、感慨深い気持ちになります。在学中に学んだことは撮影技術より、ひたむきに自己や他者について考える姿勢でした。シャッターを切れば写真は写ります。しかし、さまざまな作品を見ていくうちに、作家としてどのように社会と接点を持ち、作品を作るのかを、より考えなければならぬと感じるようになりました。この態度があったからこそ、私は写真以外の分野に対しても興味を持ち、知ることができたのだ

と思っています。写真を学び始めた頃、父から「写真家は孤独である」と言われたことがあります。確かにその通りで、思い返してみると、夜を徹して写真と向き合う日々でした。それでも大学には、孤独を分かち合える仲間がいました。どんなに苦しくても、次の朝には学校にいる彼らの姿を見るたびに、自分はまだ戦えるのだと強く思えました。この場を借りて、お世話になった全ての方々に深く御礼申し上げます。



映像学科



卒業のことば

映像学科 未永 来夢

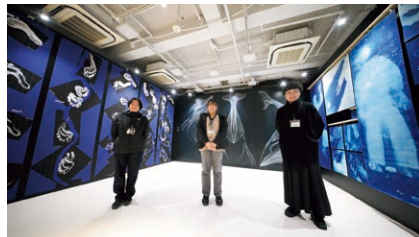
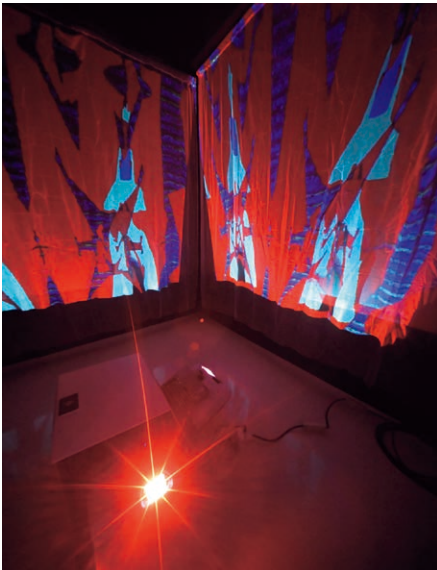
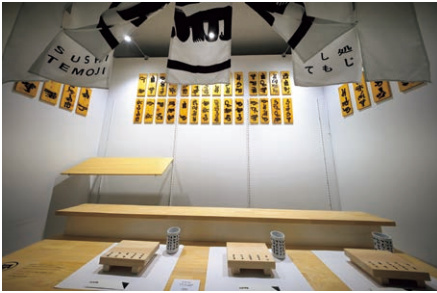
私たちは、4年前、大きな期待と夢、そして希望を抱いて、映像学科に入学しました。最初に教授から告げられた「君らは映像を素直に楽しめなくなる」という言葉の意味を、今は深く理解しています。私たちは、確かに映像を“素直に”楽しめなくなりました。なぜなら、一本の映像の裏側に、どれほど多くの時間と労力が費やされているのを知ってしまったからです。映像の面白さだけでなく、その撮影風景やスタッフの努力、些細なこだわりなどの、目に見えない部分まで想像し、味わい、楽しむことができるようになったのです。だからこそ、友人の作品を見ると、私たちは物語や映像表現だけでなく、その裏にある努力を思い浮かべ、心から称えずにはいられませんでした。

した。映像制作では、苦しいことも、悔しいことも、数えきれないほどありました。それでも、作品が完成し、スクリーンに映し出された瞬間、各部署ひとりひとりの努力が一つの作品として輝いているのを見ると、私は何よりの幸せを感じました。私は、みんなの努力が形になる映像が大好きです。大学生活4年間、映像技術だけでなく、仲間と協力して一つのを突き詰め、創り上げる喜びを学びました。これから社会に出ても、共に制作した仲間たちがそれぞれの道で輝くことを自分のことのように願っています。



卒業制作展

デザイン学科 グラフィックデザイン領域



卒業のことば

私にとって大学生活は、人生のターニングポイントでした。もともとデザインに強い関心があったわけではなく、小さい頃から音楽に打ち込み、音大を目指していたほどです。高校でも三年間音楽を選択し、美術を学んだ経験はありませんでした。音楽での挫折をきっかけに、「将来につながる芸術」という観点から選んだのがデザインでした。学びを深める中で、世の中のあらゆるものがデザインによって成り立っていることを知り、その奥深さに何度も驚かされました。発想と技術の両立、自分らしい表現と社会で通用する実務性との間で葛藤し、夢と現実の狭間で悩むことも少なくありませんでした。それでも、個性あ

デザイン学科 グラフィックデザイン領域 和田 彩夏

ふれる仲間や先生方に囲まれた刺激的な環境の中で、自分なりの答えを探し続けた四年間でした。芸術的感性を磨くことは、これからの人生を豊かにしてくれる力になると信じています。卒業後は広告やイベントを手掛ける会社でプロデューサーを目指します。この四年間で培った価値観と表現力を糧に、芸術の持つ魅力をより多くの人に届けていきたいと思っています。



卒業制作展

デザイン学科 イラストレーション領域

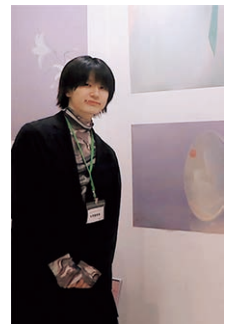


卒業のことば

私は高校生まで眠ったように生きていました。勉強もせず、「作家になりたい」なんて口だけで、美術室でゲームをしていました。東京工芸大学に入学したきっかけも当時の先輩が進学したのを聞いただけで、入学してやりたい事もとくにありませんでした。だから、きっと当時の私の目に今の私はまったくの別人に映ると思います。「イラストレーションとは何か」という、存在すら知らなかった問いに深く引き込まれ、制作を繰り返すことで自身の表現を突き詰め、今は大学院に進学した後の研究計画を考えています。身を置く環境でここまで視点が変わるのかと、自分自身でも信じられない気持ちです。言葉やモチーフ、ジャンルを問わない様々な作品、それらを自身の制作に内包

デザイン学科 イラストレーション領域 小西 海音

させていく。そういった循環が日常になっていく醍醐味を知り楽しめるようになったのは、共に熱心に取り組む仲間やそれ以上に熱心な先生方のお陰です。この大学を卒業することによって、ようやくスタートラインに立てました。また数年後、まったくの別人になる事を目指し、これからも制作と研究を続けていきます。お世話になった先生方、共に熱くなってくれた親友たち、この環境を用意してくれた両親に深く感謝します。ありがとうございました。





卒業のことば

入学したての自分を思い返すと、それはそれは未熟で、この4年間を振り返ると随分と成長できたな、大きくなれたんだなという感覚があります。入学前からものづくりが好きで、「よいもの」をつくりたいという思いはありました。しかし「よいもの」がどんなものなのか、またどうすれば出来るのか、漠然としていてよくわかっていませんでした。大学に入学し、1年次から3年次までに各領域で学んだデザインにおける知識と技術を体系化し、それを4年の卒業制作という場でアウトプットすることで、自分の作品を「よいもの」に近づけることができたように思えます。また、友人や先生方、いろいろな人々との出会いも私

デザイン学科 映像情報デザイン領域 三塚 健成

の作品に深みを与えてくれました。芸術学部には自分と同じようなタイプの人間がたくさんいるとばかり思っていたのですが、全く違うタイプの人ばかりで、学校での会話はいつも新鮮でした。この出会いの数々がなければ自分はずっとつまらない人間になっていたと思います。素敵な時間を本当にありがとうございました。本学で学んだことを活かし、今後の一生をかけ作品制作と向き合っていきます。



卒業制作展

デザイン学科

空間プロダクトデザイン領域

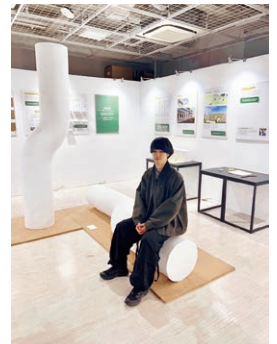


卒業のことば

この大学での活動が、人生の進む方向を大きく変えてくれたと感じています。入学した当時、私にとって空間デザインは全く未知の分野でした。進級してからも絵を描いてみたり映像制作を試してみたりと浅く自由に創作活動を行っていましたが、そこに1つの大きな道を築いてくれたのが当研究室なのです。空間や物、それに関わる人や体験を通してデザインという行為をどのように捉えるかという基軸を授けてくれました。自分が心躍るものを作っているようで、社会的意義をもたらす。機能的な価値で満たされているようで、どこか感情に訴えかける。そういった至極当然の重ね合わせも、言語化できるようになったのはほんの最近です。右も左も分からなかった私に、デザイナーとしてのビジョンを背中を示してくれた先生方に

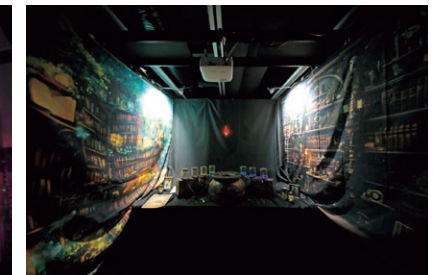
デザイン学科 空間プロダクトデザイン領域 徳岡 拓海

は本当に頭が上がりません。また、友人らも私と同じように、奔放に創作活動をする部類ですが、しかしだからこそ包括的な視点を携え、共に空間デザイナーとしての一歩を踏み出すことができたとも感じます。毎週遅くまで研究室に残って作業する日々を思い出すと別れが寂しいですが、またどこかのコンペティションや座談会でふと出会うような気がしています。教授陣の方々や同期生、後輩たちに私が当大学の卒業生であることを誇ってもらえるよう、これからも日々鍛錬を続ける心づもりです。



卒業制作展

インタラクティブ メディア学科



卒業のことば

大学に入る前は芸術系に全く触れたことはなく、関心もあまりなかったのですが、インタラクティブアートという謎のものからCGや映像まで幅広く学べて、選択肢が増えることに面白さを感じ、IM学科に入学しました。当初はパソコンもまともに触ったことがなかったので、まずは道具に慣れるところからのスタートでした。1、2年次は技術を習得することに必死でしたが、3、4年次でゼミに入り展示を経験する中で、次第に技術の先にある「表現としてのこだわり」が目に向くようになりました。特に学外展示で子供たちに作品を触ってもらった際は、安全面や操作の直感性など、自分の想定が通用しない壁に何度も

ぶつかりました。上手いはずなのにへこむこともありましたが、本気で試行錯誤したからこそ味わえた悔しさだったし、それが一番の学びになったと感じています。一つの分野に縛られず、他分野の知見を活かして何でも自分で形にできるのは、この学科ならではの強みだと思います。四年間、この場所で制作に没頭できたことに感謝しています。支えてくれた両親と教授の皆様、本当にありがとうございました。

インタラクティブメディア学科 江田 健斗



卒業制作展

アニメーション学科



卒業のことば

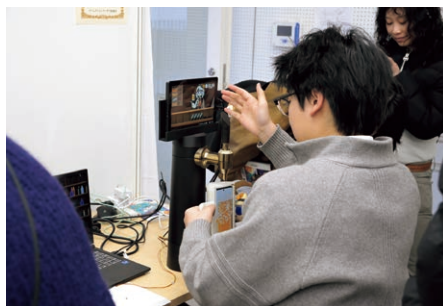
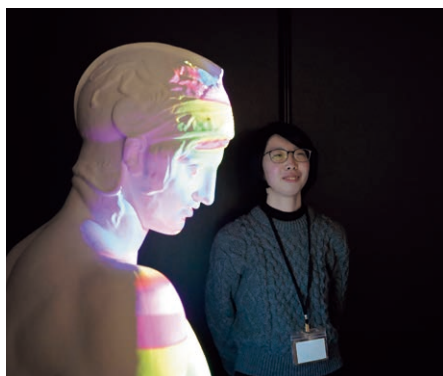
アニメに携わるお仕事がしたいという思いだけでこの東京工芸大学に入学し、気づけばあっという間の4年間でした。クロッキーやデッサン、Adobeなど初めての事ばかりで不安でしたが、そんな中支えてくれたのは同じアニメ科の仲間と先生方でした。1人だったらこの4年間を乗り越えられなかったと思います。入学して間もない頃、オリエンテーションの日時が誤って伝わり予定外の日に全員集まってしまう事件がありました。予定外の事で驚きつつも友人ができたきっかけでもあるので大切な思い出のひとつです。将来の道を選ぶきっかけとなったのは2年生で行ったグループ制作で作ることの大変さとそれを上回る達成

アニメーション学科 渡邊 眞己

感、視聴者の声を実感し、自身の進路が明確になるきっかけになった授業でした。集大成である卒業制作で制作したMVでは先生方のサポートのもとで納得のいく作品を完成させることができました。この4年間、先生方や家族、仲間の支えがあったからこそ、ここまでこれたと思います。本当にありがとうございます。本番はここからです。東京工芸大学で学んだことをアニメ業界で活かせるよう、改めて気を引き締めて取り組んでいきます。



ゲーム学科



卒業のことば

ゲーム学科 高梨 怜

私たちは4年間、この大学で何を学べたのでしょうか。人それぞれ違うと思います。私にとってそれは、「人と向き合う力」でした。ゲームを制作するということは、人と向き合うことの連続です。同じゲームを作る仲間や、先生方とはもちろんのこと、多くのプレイヤーとも向き合いました。入学当初の私は、人との関わりが得意ではありませんでした。正直に言えば、このような「卒業のことば」を書く人の気持ちは理解できないと思っていました。しかし、ゲーム制作はコミュニケーションが最も重要です。最初は多くの失敗をし、多くの人に支えられました。それでも制作を続けて、三年、四年と経験を重ねるうちに、人と真摯に向き合うことを楽しめるようになっていました。そして

今、あの理解できなかった文章を書く人になっています。これまでの大学生活で、思い通りにいかなかったことや、分かり合えなかった人がいるかもしれません。これから私たちは、また新たな人と向き合っていくことになります。人と向き合う営みは、それでも続いていくのです。だから、せめてそれらの経験を楽しめるような力を手にすることができれば幸いです。そして、これまでの大学生活、その中で触れたすべての人に感謝します。4年間、ありがとうございました。



マンガ学科



卒業のことば

マンガ学科 畠山 愛加

この四年間の学生生活は、私の好奇心に最大限答えてくれる大切な時間でした。私の漫画は、興味を持ったものから物語やキャラクターを作っています。例えば、金魚であったり、鉱物、虫、着物などなど。高校生までの私の興味は限定的で、まだキャラクターの心情などを、深く思考する段階ではありませんでした。しかし、大学に入り、友達が出来て、面白そうな授業を片っ端から受講しているうちに、興味の幅が広がりました。また、友達との関係などから、人の心情なども、深く考えるようになったと感じました。それでも、漫画作りは難しく、在学中も思うようにいかない事が多かったです。そんな時は、先生方や、学校へ来て下さる編集さん達の助言を元に制作を続け、卒業制作では、ある程度納得のいく作品を仕上げ

ることが出来ました。マンガ学科の先生方は、それぞれ幅広い専門分野があり、沢山の資料や知識を私に共有してくださいました。また、私が自然サークルを作りたいと言った時に、一緒に作ってくれた友達、顧問になってくださった先生方、サークルに入ってくれた友達や、後輩たち。皆に最大限の感謝を伝えたいです。これからも興味の赴くままに社会へ出て働き、大学で出会った仲間たちと、一緒に漫画を描き続けようと思っています。面白いものを、読者の方々に伝えられるような作家を目指して、日々制作を続けていきます。



第16回ホームカミングデー

2025年11月29日(土)、中野キャンパス1号館で大学主催の「第16回ホームカミングデー」が開催されました。東京写真専門学校、東京写真短期大学、工学部、短期大学部、女子短期大学部、芸術学部各卒業生が対象で、97名の方の参加がありました。1B01大講義室での式典では、吉野弘章学長より歓迎のご挨拶があり、卒業50年目・25年目の卒業生57名に対し恒例の学友記が贈呈されました。

式典のあと学生食堂に移動し懇親会へ。工学部同窓会の舟木学会長の始まりの挨拶に続いて、女子短期大学部(華輪会)の宮永悦子会長の乾杯のご発声で軽食を食べながら歓談のひとつときを過ごしました。最後に本同窓会の安達洋次郎会長の締め言葉、そして恒例の立川同窓会事務局長の三本締めで宴はおひらきとなりました。

(上田耕一郎 75期)

式典



写真提供：都筑写真事務所



懇親会



写真提供：都筑写真事務所

2026フォックス・タルボット賞

フォックス・タルボット賞は、写真表現に情熱を傾ける若い写真家の登竜門としての役割と国際的視野をもった写真家を育成することを目的に、1979年に設けられ、今回で47回目を迎えます。

本賞は、ネガポジプロセスの発明者ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット氏(英・William Henry Fox Talbot 1800-1877)の偉業をたたえ、イギリスのフォックス・タルボット美術館のご協力をいただき、氏の名前を冠した賞となっています。

また、同窓会から多大なるご支援をたまわり、本学100周年が目前となった第43回よりあらたに奨励賞を設けることができましたこと、ここにあらためて御礼申し上げます。

受賞作品は2月24日から3月21日まで写大ギャラリーで展示され、会期中の3月14日には表彰式と祝賀会がとりおこなわれました。

卒業生の皆さま、卒業後10年までという制限はありますが、ぜひ次回の「フォックス・タルボット賞」へのご応募をご検討ください。お待ちしております。本賞がこれまでも増して、本学を巣立ち、社会の荒波の中で創作を続ける卒業生の皆さまの励みになればと思います。

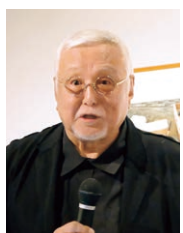
フォックス・タルボット賞運営委員長
教授 圓井 義典



集合写真



吉野学長



立木審査委員長
による総評



賞状授与



第一席の岡田 望さん



内藤同窓会副会長

写真提供：都筑写真事務所

2026フォックス・タルボット賞は、2026年1月27日に審査が行われ、下記の方々が受賞しました。

2026フォックス・タルボット賞 受賞者

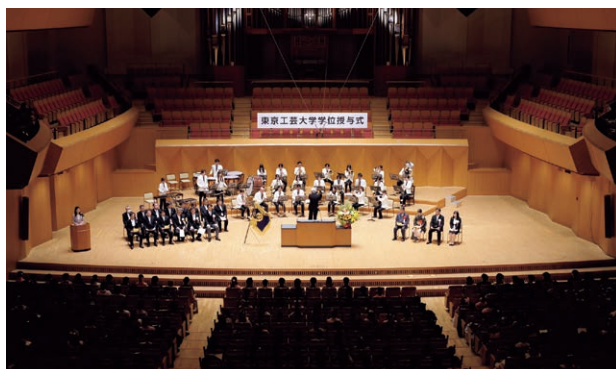
第一席	多摩川採集	岡田 望	芸術学部写真学科4年
第二席	木の家、白煙の町	中根 健太	芸術学部写真学科4年
第三席	知覚の集積	森川 舞花	芸術学部写真学科4年
モノクロ賞	MIM(My image map)	遠藤 優	芸術学部写真学科4年
奨励賞	あてのない旅	シュウ セイコウ	芸術学部写真学科2年
佳作	土を継ぐ	湯本 愛子	芸術学部写真学科4年
佳作	息吹	チョウ シホウ	芸術学部写真学科3年
佳作	写真を撮る、手紙を送る	田辺 詩 懐	芸術学部写真学科4年
佳作	Boundary	カ ナン	芸術学部写真学科4年
佳作	F∩eeDom:kirax II	中島 桜子	芸術学部写真学科4年
審査委員の先生方	立木義浩(審査委員長) 中谷吉隆 小林紀晴 梁丞佑 本城直季(敬称略)		

※学年は受賞当時のものです。

2025年度 学位授与式

2026年3月24日(火)横浜みなとみらいホール・大ホールにて2025年度芸術学部・大学院芸術学研究科の学位授与式が執り行われました。学部592名、大学院18名の計610名が本同窓会の仲

間に加わった瞬間にもなります。式には来賓として本同窓会の安達会長が出席し、祝辞を述べました。卒業生の皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。



2025年度 卒業祝賀会

学位授与式のあと、会場を横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ(5階大宴会場)に移して、後援会・同窓会主催の「卒業祝賀会」が開催されました。今回から司会進行は、同窓会山口規子常務理事。後援会長、同窓会長の祝辞のあと、吉野学長の乾杯の

ご発声、そして4年間一緒に歩んできた仲間、恩師との楽しい歓談の時間を過ごしました。会の終盤には恒例の学科ごとの記念撮影。そして、同窓会内藤副会長の中締め、立川専務理事の三本締めで会はお開きとなりました。(上田 耕一郎75期)



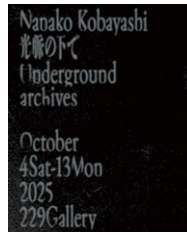


学位授与式・卒業祝賀会の写真提供：都筑写真事務所

展示会・出版の記録



展：高橋実希 個展「あの花／Specimens」
作：高橋実希(写真学科94期)
所：LAG(LIVE ART GALLERY)
期：2025.10.24-2025.11.15



展：小林菜奈子作品展「光脈の下で～Underground archives～」
作：小林菜奈子(写真学科97期)
所：229 gallery
期：2025.10.4-2025.10.13



展：内藤 明 写真展「elsewhere」
作：内藤明(写真技術科47期)
所：ギャラリーイー・エム 西麻布
期：2025.10.29-2025.11.26



展：「Newly taken in 2025」
作：広川泰士(元 写真学科教授)・櫻井由理・平見 真祐・小林 大樹・中里 楓・齊藤 柊子・神谷 美咲・呉 在雄・白幡 健太郎・町田 海(写真学科卒業生)
所：JCII クラブ25
期：2025.11.11-2025.11.16

ひろばのページ

2026年度入学式

2026年4月2日、LINE CUBE SHIBUYA(渋谷公会堂)にて2026年度の入学式が挙行されました。芸術学部には693名の新しい仲間が加わり、会場には新入生の希望に満ちた表情が溢れていました。来賓として本同窓会の内藤副会長が祝辞を述べました。



令和7年度 後期定例理事会開催報告

令和7年度 同窓会後期定例理事会を、令和7年12月15日(火)15:00～16:30、東京工芸大学中野キャンパス6号館3階大会議室にて開催いたしました。構成理事33名のところ、19名(委任状含む)の出席により理事会開催が成立し、全ての議案に関してご承認頂きました。

議題

1. 令和7年度前期事業報告について(報告事項)
 - (1)事業委員会
 - (2)総務委員会
 - (3)広報委員会

- (4)名簿委員会
2. 令和7年度中間収支報告について(報告事項)
 - (1)会計委員会
3. 令和7年度後期事業計画について(報告事項)
 - (1)事業委員会
 - (2)総務委員会
 - (3)広報委員会
 - (4)名簿委員会
4. 同窓会創立100周年記念事業の進捗状況(報告事項)
5. その他

展：展示会名 作：作者 所：場所 期：会期
 ※学年、職位等は開催当時のものです



展：Club 銀燕 チャリティ鉄道写真展2025
 作：荒川好夫(42期)・武俊典(60期)・米屋
 こうじ(64期)・塩田哲也(66期)・小林大樹
 (88期)
 所：セシオン杉並(展示室)
 期：2025.11.21-2025.11.28



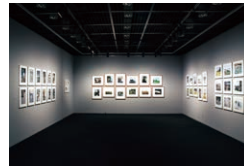
展：小島三幸 写真展「ハレ ときどき」
 作：小島三幸(写真学科78期)
 所：RED Photo Gallery
 期：2025.11.24-2025.12.7



展：片平孝写真展「塩の旅 ～地球の塩
 の現場に立つ～」
 作：片平孝(写真技術科40期)
 所：たばこと塩の博物館 2階特別展示室
 期：2026.1.31-2026.4.5



展：岡田敦 写真展「ユルリ島の馬～The
 Horses of Yururi Island～」
 作：岡田敦(大学院芸術学研究科博士学位)
 所：富士フィルムフォトサロン 東京(スペース1)
 富士フィルムフォトサロン 札幌
 富士フィルムフォトサロン 大阪(スペース1)
 期：2026.2.20-2026.3.5
 2026.9.18-2026.9.23
 2026.10.30-2026.11.12



展：2026フォックス・タルボット賞受賞写真展
 作：岡田 望(写真学科4年)・中根 健太(写真学科4
 年)・森川 舞花(写真学科4年)・遠藤 優(写真学科
 4年)・シュウ セイコウ(写真学科2年)・湯本 愛子
 (写真学科4年)・チョウ シホウ(写真学科3年)・田
 辺 詩懷(写真学科4年)・カ ナン(写真学科4年)・
 中島 桜子(写真学科4年)
 所：東京工芸大学 写大ギャラリー
 期：2026.2.24-2026.3.21



展：写真専攻大学・専門学校選抜作品展
 New Generation Photography 2026
 作：チョウ シホウ(写真学科3年)
 所：ニコンプラザ東京THE GALLERY/
 ニコンプラザ大阪THE GALLERY
 期：2026.2.3-2026.2.16
 2026.2.26-2026.3.11



展：立川宏司 写真展「羽田寸景」
 作：立川 宏司(写真工業科43期)
 所：ギャラリー一結
 期：2026.3.1-2026.3.29



展：東京工芸大学芸術学部写真学科 肖像
 写真研究室作品展2026
 作：佐久間 花恋・田村 和也・西山 静玖・
 橋本 真海・日野 妃奈・緑 拓登・湯本 愛子
 (写真学科4年)
 所：encounter gallery
 期：2025.3.3-2025.3.8



展：東京工芸大学芸術学部写真学科卒業制作
 選抜展Recommend展2026
 作：カナン・ヨウジャクシン・岡田望・橋本
 真海・内海幸雪・濱中美唯菜・栗原みのり・
 田辺詩懷・藤田雄大・二宮綾乃・木村琉泉・
 樋口若菜・中根健太(写真学科4年)
 所：ソニーイメージングギャラリー銀座
 期：2026.3.13-2026.3.19



展：ニコンサロン年度賞 2025受賞作
 品 第50回伊奈信男賞
 小林紀晴写真展「Cyber Modernity—
 Shanghai,Chongqing,Bangkok,Ho
 chi Minh—」
 作：小林紀晴(写真技術科63期)
 所：NikonSalon(ニコンプラザ東京
 内・新宿)
 期：2026.3.17-2026.3.30



展：青木勝 写真展「JET SONG II」
 作：青木勝(写真技術科41期)
 所：OM SYSTEM GALLERY(旧
 オリンパスギャラリー東京)
 期：2026.3.19-2026.3.30



展：2026年 春のAJCC写真展
 “クラシックカメラで撮る楽しみ”
 作：佐久間俊夫(写真技術科56期)
 所：JCII クラブ25
 期：2026.4.21-2026.4.26



展：鈴木理十+赤石隆明+チバガク
 +高田有輝「写真向後」
 作：高田 有輝(写真学科91期)
 所：iwao gallery
 期：2026.4.9-2026.4.26

訃報

衷心よりお悔み申し上げます。

北 崎 秀 二 (29期・写真技術科)

畑 鐵 彦 (41期・写真工業科)

坂 倉 秀 昭 (38期・写真工業科)

梅 寄 正 吾 (41期・写真技術科)

小 川 隆 彦 (38期・写真工業科)

温 泉 敏 一 (46期・写真技術科)

(敬称略)

訃報は御親族の承諾を頂いた方のみ掲載させて頂いております。

ひろば151号の「訃報欄」の訂正とお詫び

2025年12月に発行いたしました「ひろば151号」の「訃報欄」に誤りがありました。

訃報掲載欄の42期写真技術科・斉藤尚義 様ですが、42期写真技術科・斉藤裕之 様の誤りです。訂正してお詫び申し上げます。

ご家族の皆様をはじめご関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけしました。今後、このようなこと

が二度とないように、訃報の掲載につきましてはチェック体制を強化いたします。何卒ご容赦ください。

故人のご冥福と、ご家族の皆様のご平安を心からお祈り致します。

東京工芸大学同窓会
会長 安達 洋次郎

■ 東京工芸大学同窓会 創立 100 周年記念事業のご案内

本年、同窓会は創立 100 周年を迎えています。

これを記念し、式典・記念講演・祝賀会を開催いたします。

特に記念講演では、アーティスト・研究者として国内外で活躍するSputniko! (スプツニ子!) 氏 のご講演を開催します。

プロフィール等は QR コードよりご覧いただけます。

同窓生・学生をはじめ、広く皆様のご参加をお待ちしております。

<https://sputniko.com/>



■ 開催概要

◇ 日時：2026 年 9 月 5 日 (土)

◇ 式典・記念講演

会場：東京工芸大学 中野キャンパス 5号館メインホール

◇ 祝賀会

会場：東京工芸大学 中野キャンパス 2号館 プレイス

※詳細・参加方法は同窓会ホームページ (右 QR コード) をご覧ください。

<https://kougei-dousoukai.jp/>



編集後記

今年に入って、約20年前の研究室の卒業生から「同窓会を開催したい」という連絡があり、うらかな春の土曜日にランチ同窓会に行ってきました。参加メンバーは少数ではありましたが、その分懐かしい当時の話、いまの話で密度濃く盛り上がりました。とても楽しいひとときで、英気を養うことができました。またお会いしましょう。

広報委員 上田 耕一郎(75期)